

1 キリスト教教理入門

1 1. 神学をすること

2. 神の啓示
3. 神の性質
4. 神のみわざ
5. 人間
6. 罪

2 7. キリストの人格

8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末

2 第六部 罪論

■ 20章 罪の性質と源

■ 21章 罪の結果

■ 22章 罪の重大性

3 第20章 罪の性質と源

1. 罪を議論することの難しさ
2. 罪の性質に関する聖書の見方
3. 罪の源

4 第1節 罪を議論することの難しさ

1. 罪という主題は余り喜ばしいものではない
2. 罪という概念は見知らぬ概念である
3. 罪とは外的で具体的なものと考えられている

5 第2節 罪の性質に関する

聖書の見方

1. 罪は内的な傾向である
2. 罪は反逆・不従順である
3. 罪は霊的不能を伴う
4. 罪は神の基準の不完全な成就である
5. 罪は神を置き換えることである

6 第3節 罪の源

第1項 多様な概念

■ 罪の源は何か？ - 治療に必要

1. F・テナント
 - 動物的性質である
2. R. ニーバー
 - 人間の有限性に起因する心配である
3. P. ティリッヒ
 - 存在の基盤からの離間に関係している
4. 解放の神学
 - 経済的闘争にある

- 5. H. S. エリオット
 - 個人主義的競争

7  第3節 罪の源

第2項 聖書の教え

1. 罪は神によって引き起こされない
2. 欲求の適切さの問題がある
3. 人間の能力、選択肢
4. 自然な欲求と誘惑となる領域
 1. 物事を楽しみたい願ひ
 2. 物事を手に入れたい願ひ
 3. 物事をなしたい願ひ
5. 満足する適切な方法と神の課せられた制限
6. サタンによる合法的な誘惑
7. 外部からの誘導が含まれる
8. 肉と呼ばれるものの存在
9. 罪の源は治癒について語りかけている